

ヨコハマ、カリフォルニア『ヨコハマ、カリフォルニア』

"YOKOHAMA, CALIFORNIA"

BG-5204

1. TANFORAN タンフォラン
2. THE GREATEST CHANGES ザ・グレイテスト・チェンジズ
3. TURNING MY BACK ターニング・マイ・バック
4. MANONGS OF WALNUT GROVE マーノング・オブ・ウォルナット・グローヴ
5. HOT AUGUST MORNING ホット・オーガスト・モーニング
6. DIFFERENT PICTURE ディファレント・ピクチャー
7. VEGETABLES ヴェジタブルズ
8. ONE STEP CLOSER ワン・ステップ・クローサー
9. TOMORROW トゥモロー

LIVE BONUS TRACKS:

10. IKAW AY MAY KASAMA イカウ・アイ・マイ・カサマ
11. NORIKO'S BLUES ノリコズ・ブルース
12. BAMBOO バンブー
13. DREAM FOR TOMORROW ドリーム・フォー・トゥモロー
14. NOW THAT YOU'VE GONE ナウ・ザット・ユーヴ・ゴーン
15. HOT AUGUST MORNING ホット・オーガスト・モーニング
16. MUSIC FOR THE PEOPLE ミュージック・フォー・ザ・ピープル

bonus tracks recorded 1977

ヨコハマ、カリフォルニア

ミュージシャンとして、わたしたちは、アジア系アメリカ運動についての心情を表現したいと考えている。そして、他のアジア系アメリカ人による作品を歌うことから活動を始めた。

しかし、時が経つにつれ、わたしたちは自分たちの音楽を創造し発展させる必要性を感じ始めた。わたしたちが歌で表現しようとしたのは、アジア系アメリカ人の歴史、わたしたちのコミュニティが抱える現在の問題、そして将来に向けた希望である。

このアルバムにより、わたしたちの音楽をまだ聴いたことのない人にも音楽が届けられればうれしいし、また、このアルバムが、他のアジア系アメリカ人が自分自身を創造的に表現していくための励みとなれば幸いである。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

タンフォラン（誰もいないの？）

ピーター・ホリコシ & サム・タキモト

1942年、太平洋沿岸に「アッセンブリー・センター」が設置され、日系アメリカ人たちが一時的に収容された。その後、彼らは、内陸部の、より恒久的な、「強制収容所」に送られることになる。当時、「タンフォラン」は競馬場であったが、現在、かつてそこが仮収容所であったという側面はほとんど忘れ去られている。このような市民権の剥奪が二度と起きないことを願い、そこに収容された人たちにこの曲を捧げたい。追記：現在、BART(サンフランシスコ・ベイ・エリアを走る高速鉄道)のサン・ブルーノ駅には、タンフォラン仮収容所の記念碑が設置されている。

コツ、コツ(ノックする音)…誰もいないの？

誰か住んでいると思ったけれど…

ずっと昔、ここにひとびとが住んでいた。でも、遠い昔の話だから、あなたはきっと知らないでしょう、ここに彼らが住んでいたことを。今は、記憶は曖昧として…今は…

タンフォラン、タンフォラン、誰もいないの？ ええ、あなたを家と呼んだのは、ずっと昔の話。タンフォラン、タンフォラン、誰もいないの？ ええ、それはずっと昔の話、でも、今度はあなたがわたしを呼び寄せたのね。

昨日、タンフォランに行くと、馬が走り回っていて、旧知の人たちが楽しげに賭け事をしていた。でも、わたしは、彼らの知らないタンフォランを知っている。1942年の初め、ここはわたしの家だったから。

コーラス:

誰もいないの？ 誰もいないの？ それとも、誰も気づかないだけのの？ 誰もいないの？ 誰もいないの？ わたしは時々、わたしたちがどこに向かっているのかわからなくなる、どこに向かっているかが…

タンフォラン、タンフォラン、どこにいるの？ アメリカのどこかに迷い込んだの、アメリカはどこで間違ったの？ タンフォラン、タンフォラン、あなたの後ろを見ようとしても、それは、わたしたちの過去に深く埋もれて、もう見つけられないのかしら？

コーラス:

競争馬が入れられているだけじゃない、ほかに何か見えない？ 狭い部屋に人間が押し込められていたの、これが公平と言える？ さあ、馬がレースに戻るから、そのお金を賭けて！ 自分の居場所を失うのが怖い？ 真っ直ぐに向かい合えない事があるっていうの？

コーラス:

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ザ・グレイテスト・チェンジズ ロバート・キクチ=インゴーホ

アメリカには社会改革の必要があると私たちは強く思う。これを実行するのは個人やグループではなく、その責任はこの国のすべてのひととひとにある。社会はひととひと(People)で形成されているから、社会を変革するのはひととひとでなくてはならない。ひとりきりでは、無力で、なんの役にも立たないと感じがちになる。しかし、大勢が集まり、力を合わせて生まれるエネルギーは、無敵の力になり得ることを心に留めておこう。

ぼくはたったひとりで、千の山々に降る一滴の雨粒にすぎないけれど、土に吸い込まれないで、山から小石をひとつ押し流すことができる。ふたりなら、岩に降る二滴の雨粒になり、不可能に見えるかもしれないが、やがて岩は砕ける。想像できるかい、千人以上の人たちが、ひとりずつ、十人ずつ、雷雨の中の千の雲のようになれることを？ そうさ、山は動く、ぼくらは山を動かせるのさ。ただ、力を合わせると決意すればね。そうさ、みんなで力を合わせるんだ。

ぼくはたったひとりで、千の問題を抱えているが、変革を起こすのを恐れず、闘いに挑む。ぼくらは、自分たちが大勢の人間の集まりであることを、そして、人はみんな違うということを知っている。こうしてみんな集まったのだから、互いを尊重し、力を合わせよう。そうすれば、千以上の問題を克服できる。ひとりずつ、十人ずつ、人間の嵐の中の千人のように、きみとぼくが、ぼくたちが、団結できるのは、心を合わせて取り組んだとき。そうさ、みんなで心を合わせて取り組むんだ。

きみはたったひとりで、ひとりだけでは意味がないように思う

かもしれないし、自分を無力だと感じるかもしれない、でも、山に降る雨粒を思い出してごらん。ひとりが、そう、たったひとりが運動への一歩になることに気づくだろう。それに、海の中でさえ、一番小さい生き物が最大の変化を起こせるんだ。そうすれば、ぼくたちは千以上の問題を克服できる。ひとりずつ、十人ずつ、雷雨の中の千の雲のように。きみとぼくが、ぼくたちが、団結できるのは、心を合わせてなにかに取り組むとき。そう、みんなで心を合わせて取り組むのさ。

ぼくらはアリから学ばなければ…一匹ずつ…葉っぱを持ち上げ 葉っぱ…一枚ずつ…雨をよけ 雨は…一滴ずつ…海に注ぎ…力を合わせる。一番小さい生き物が最大の変化を起こせる。ひとつずつ。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ターニング・マイ・バック ピーター・ホリコシ

運動に関わっていると、しばしば、変革を求める闘いに疲れ、あきあきしてくる。そんな時、ぼくたちは落胆し、そもそもどうして闘いに関わってしまったのかと自問する。そのとき気づくのは、自分たちで未来をつくらなければ、他の誰か、あるいは何かほかのものにより、自分たちの未来がつくられてしまうということだ。やるべきことはたくさんある。闘い続ける決意をしたすべての仲間はこの歌を捧げる。

ぼくはこの運動に背を向け、この場を離れるときだと思っている。運動はやめたくないが、やる気をなくしてしまったんだ。運動に加わったとき、ぼくはまったくの世間知らずだった。今は疲れきり、心も折れて、だから、そろそろ潮時かなと思うんだ。運動に背を向け、離れるときだと思っている。運動はやめたくないが、やる気をなくしてしまったんだ。

踏みとどまろうとはして見るが、いつまでもつかわからない。

ぼくらの生きる望みだった夢…信じた夢… 夢はあつという間に消え去り、過去のものとなり、そしてぼくも。運動に背を向け、離れるときだと思っている。運動はやめたくないが、やる気をなくしてしまったんだ。

長い間にわたる闘いが過ぎても、まだこの闘いの重大さを理解できず、最終的な目標に集中できないが、運動に戻らなければならないのはわかっている。進むべきときだと思っている。運動はやめたくない、やるべきことがたくさんあるから。

落ち着いて物事を考え、理解するために、休暇を取るほうがいいのかもしれない。自分の気持ちを整理して、ぐずぐずしないで、再び闘いに加わるんだ。

なぜかという、運動に戻らなければならないから、進むべきときだと思っているから。運動から離れたくないんだ、やるべきことがたくさんあるから… やるべきことがたくさん…たくさんあるから！

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

マーンズ・オブ・ウォルナット・グローヴ ロバート・キクチ=インゴーホ

1920年代から1940年代にかけ、何千人ものフィリピン人がアメリカに移民した。多くの者にとつて、この国が彼らに与えるはずの金色に輝くチャンスは、偽りの夢と化した。彼らは低賃金で長時間働き、日々の暮らしに困窮することになる。現在、マーン(訳注1)たちがウォルナット・グローヴのような町に住んでいるのを見かける。この町は肥沃なサクラメント・デルタに位置し、かつては農業が盛んであった。わたしたちはこの歌をマーンたちに捧げる。彼らの手や顔には、長い間の苦勞が染みついていて、その眼には、彼らの中にいつまでも生き続ける精神を見ることができ

川のそばの人目に触れないところに、ずっと昔からある町。

旅行者は河岸のゴーストタウンと呼び、「ここで記念写真を撮ろう」とパパがあちこちを見回す。ママは車の窓を下ろして指をさす。彼らにはこの町が今も生きていることがわからない、日曜日のドライブで通り過ぎるだけ。そして、ゴーストではなく生きている人間が住んでいることに驚く。

崩れそうな煉瓦の壁、屋根板とブリキ屋根の材木の町。マーンはひとり玄關に座り、不平をもらさず、ここを我が家だと言う。作物が実った時代を思い出し、風雨にさらされた手で木を削り、ロッキング・チェアを前後に揺らし、初めてここにやって来た頃を振り返る。欲しいものや好んで行く溜まり場の夢を見ながら、彼の精神はずっとここにある。

コーラス:

ウォルナット・グローヴ、川は流れる。ほかの町のようなゴーストタウンじゃない。時は経ち住む人は変わるが、希望を持ってぼくたちは成長する。だから忘れない、この仲間たちを忘れない、ウォルナット・グローヴの仲間たちのことを。

ひとりのフィリピン人が釣竿を手に棧橋に座っている。少年のころ貨物船に乗り、希望と恐怖を道連れに、アメリカに向かった。ずっと昔の甘い夢。今はウォルナット・グローヴの川のそばで次の食事を待っている。寂しそうに夢を釣ろうとしているが、いつも希望を捨てなかった。

ここから遠くないところに思い出の場所がある。そこで、ある老人が過ぎし日を語るのを、その手を握りながら聞いた。変わりゆく時代の話をしてくれた。昼と夜について、正しいことと間違ったことについて。いつの日かこの町が忘れられても、老人の声は消えないだろう。思い出の中でわたしは老人の顔を見るだろう、そして彼の言葉はいつもここにある。

コーラス:

ウォルナット・グローヴ、川は流れる。ほかの町のようなゴーストタウンじゃない。時は経ち住む人は変わるが、希望を持ってぼくたちは成長する。だから忘れない、ここの仲間たちを忘れない、ウォルナット・グローヴの仲間たちを

(訳注1) タガログ語。直訳すると「おじさん」だが、フィリピンから米国への移民は未婚の男性に限られたため、この場合、マーンは、生涯独身で暮らしたフィリピン系の男性を意味する。たとえば、マーンたちは、カリフォルニア州のサンホアキン・バレー、サンフランシスコ、シアトルのインターナショナル・ディストリクトなどのコミュニティで余生を過ごした。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ホット・オーガスト・モーニング ピーター・ホリコシ

この歌は1945年8月に日本で起きた出来事に関する思いを表現している。現在もなお、わたしたちはあの恐ろしい実験の名残を眼にすることができる。リヴァモア放射線研究所(ローレンス・リヴァモア国立研究所)は「進化」し、広島に投下された原子爆弾の100倍の威力を持つ核兵器を有するまでになった。この歌を1945年8月の広島と長崎のひとびとに捧げる。

フレズノの8月の朝は暑い、地元の日系人には暑くない。パークレー出身の、涼しさに慣れている者には暑いだろう。8時30分に起きる、太陽は輝き、出かける時間になった。外に出ると、一陣の暑い風が吹きつけてくる。都会暮らしの田舎者の少年には爽快だ。でもやはり、奇妙な感覚がする——空気は静かで…動かず…音がない。あの暑い8月の朝、ヒロシマもこうだったのだろう。太陽が褐色の肌に照りつけ、ぼくは日焼けを鏡うフローリンの子供のよう。

リヴァモアの暑い8月の朝、ぼくは1970年のヒロシマ・ナガサキ記念式典を思い出す。ぼくらはリヴァモアに行った。式典

は放射線研究所の真向かいであり、25年前のヒロシマのひとびとのために1分間の黙祷を捧げた。それでもやはり残る奇妙な感覚——静かで…動かず…音がない。空を見上げB29を探しても、今日は飛んでこない。ヒロシマの暑い8月の朝。これ以上何が言えるのか？

8時には太陽は出ていて、今朝の空気が暑く、ぼくには言いたいことがある。カリフォルニアの夏、セントラルバレーは快晴だけれど、何か奇妙な感覚がする、とても奇妙な感じがする。早朝の太陽は心地よく、ぼくはいつものように日に焼けているけれど、過去の痕跡を思い出す。1945年8月6日、ヒロシマの町は活気にあふれていたが、それはあつという間に起こった。原子爆弾だ。

空を見上げB29を探しても、今日は飛んでこない。ヒロシマの暑い8月の朝。これ以上何が言えるのか？

ヒロシマ、なぜ焼き尽くしたのか？ヒロシマ、いつになったら学ぶのか？ヒロシマ、あなたの痛みを感じる。ヒロシマ、それはむなししいことなのか？

空を見上げB29を探しても、今日は飛んでこない。ヒロシマの暑い8月の朝。これ以上何が言えるのか？

ナガサキ、8月9日、なぜ二度も落としたのか？ナガサキ、戦争は終わりにかけていたのに、傷口を開き、その傷は決して治らない。

空を見上げB29を探しても、今日は飛んでこない。ヒロシマの暑い8月の朝。これ以上何が言えるのか？

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ディアレント・ピクチャー ロバート・キクチ=インゴーフ

アメリカの主流派は、いとも簡単に、ぼくたちには言うべきことが何もないのだと決めてかかる。アメリカには、国民を暗闇に置いて何も見えないようにし、耳をふさぎ、真実を語ろうとする声を覆い隠す歴史がある。ぼくたちの物語は、単にアジア人に関することだけではなく、部分的には、国中の抑圧されたひとびとの物語でもある。黒人、チカーノ(メキシコ系アメリカ人)、先住民、ゲイ、女性、そして、すべての労働者階級の物語だ。では、何がなされるべきなのか？ ぼくたちは、語り、聴き、真実を映す新しいイメージを使うことにより自分自身を見つめなければならぬ。違った絵こそ、ぼくたちがつくるなにかだ。

まるで知らなかったかのように、ぼくが何者だか言えるかい？きみはぼくの肖像画を描こうとしたけれど、真実は描けなかったね。ぼくを見たときどんなイメージを思い浮かべたの？チャーリー・チャン(訳注2)を覚えているから、ぼくがアメリカ人じゃないと思ったの？ そうなら… まあいいさ、ぼくの前祖がどの国から来たか、きみが知らなくても驚かない。フィリピン、それとも日本？きみは、ぼくたちがみな同じように見えると言う。きみは違った絵を描き、だけどそれはぼくにまったく似ていない。それからきみはメディアにその絵を見せびらかし、ぼくはカラーテレビに映る情けない黄色い目尻の上があったやつ、ってわけだ。

一枚の絵には千の言葉の価値があるという。だけど、たとえ百万の言葉でも、真実が述べられていなければなんの意味もない。

ぼくを高慢なクーリー(訳注3)と思うだろうが、それは間違いだ。さあ、語りだすときが来た、肩から重荷を下ろそう。さっき言ったように、きみは嘘を信じ込まされていたのさ。そしてきみは、目隠して描かれた絵を見つめていたんだ。ほかに、きみは騙されていたんだ。

それに、暗闇にいては、マンザナールやツールレイクの日系アメリカ人強制収容所のことを知ることはできない。もう34年も経っているが、きみはとんでもない間違いを知らずにいたのさ。

さて、ぼくらが何者であるか、どの国から来たか言えるかい？ぼくらは自分の家族の肖像を描くとしよう、兄弟姉妹が手に手を取っている絵を。きみは違った絵を見つけ、きっと驚くだろう。そして初めて、これまで聞いたことのない物語を知るのさ。ぼくらのようなひとびとが自由になろうとした物語を。

(訳注2) E.D.ピガーズ作の人氣推理小説シリーズに登場する中国系アメリカ人刑事。知的で思いやりのある人物としてキャラクターが設定されており、多数派白人にとって「邪悪なイメージ」が強かった中国系の印象を変えたが、「チャーリー・チャン」もまた中国人性を一面的に表象する新たなステレオタイプとなった。
(訳注3) 19世紀から20世紀初頭にかけて欧米他に移民したインド人、中国人などの労働者。苦力。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ヴェジタブルズ ロバート・キクチ=インゴーフ

アメリカの野菜と果物はどこで収穫されているのか。暑さの中で、汗水をたらし、犠牲を払い土地を耕したのは誰なのか。一世紀以上にわたり、わが国の食品産業は、安価な農業労働力に依存してきた。先住民固有の土地を横切って進む西部の発展にともない、農地の開発は農場労働者を広く集めることを意味するようになり、中国、日本、フィリピンから膨大な数のひとびとが集められた。

1930年代には、既に、フィリピン人農場労働者が、厳しい条件の下、西部諸州の多くの農場で働いていた。労働条件改善を求めて彼らが労働組合を結成しようとする、容赦なく

活動を禁止され、指導者が暗殺されることもあったが、それらは米国の人種差別が背景となっている。フィリピン人や他のアジア系アメリカ人たちは、黒人、ヒスパニック、先住民たちとともに、二級市民として扱われ、その汚名は今もからだに染み付いている。「ヴェジタブルズ」は、この社会的不正に焦点を当てるために書かれた曲である。

サンホアキン・バレーの新鮮な野菜たち、サリナス育ちの野菜たちは鮮やかな緑色

移民労働者は日に焼け褐色の肌。暑い谷の太陽の下で土地を耕す。生活のために働き、やせ細る。でも、仕方がないんだ、緑の野菜を作るため。緑のキャベツを、緑のホウレン草を、緑のレタスを 緑のプロッコリを、あらゆる種類の豆を。サヤエンドウ、ライマメ、ヒヨコマメのようなあらゆる種類のマメを作るため。でも牧草が緑なのは、褐色の人間のためではない。彼は土を耕し、土地を耕し、太陽の下で、褐色の人間になる！

郊外のセーフウェイの売り場に並ぶ新鮮な野菜たち。レストランで料理される新鮮な野菜たち。レストランの表口には「褐色の人間お断り」の看板。用があるなら裏口から。褐色の肌の人間は薄暗い裏口を使え。

「入れ、ほうきを持ってこい」
褐色の人間は入って、モップで掃除をする。生活のために働き、やせ細る。でも、仕方がないんだ、床をきれいにするため。そして彼は素手で床をごしごしこする。バケツの水は褐色の男をますます褐色にする！

腹の出たアメリカの口に入る新鮮な野菜たち。新鮮な野菜たち。褐色の男は野菜になり、社会悪によって煮られ、スライスされ、赤、白、青に染められた嘘に焼かれ、アップルパイは、たくらみだらけ。リンゴを切ったとき、褐色の部分は使わない。それで褐色の部分を捨て、腐っていると言う だから褐色の男よ、用心しろ、アメリカは、混合が可能な「つぼじ」じゃない

んだ。本当のアメリカは、溶けない有毒な、ぶつ切りのシチューだ。嘘だと思ふなら、ボールに一杯食べてみる 今度シチューに歯を沈めると、新鮮な野菜たち。新鮮な野菜たち。すべてはバターソースの中で凍りついている

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

**ワン・ステップ・クローサー
サム・タキモト**

社会的、政治的、経済的な変革によりもたらされる利益を正しく享受するため、運動に深く関わる時、わたしたちは、目標と信念を分かち合う他のひとびとと一体化することができる。このような意識と精神との一体化があつてこそ、わたしたちの努力の賛歌は、他のひとびとへと受け継がれるのだ。

友よ、あなたに一步近づくと、あなたがわたしに一步近づくと。その一步こそがみんなの求める変化をもたらす。あなたとわたしは力を合わせ、明るい運命を目指す。見たいものすべての思いと夢を分かち合える。

わたしが望むのは—— もう一步近づいて！もう一步近づいて！もう一步近づいて変化をもたらすの！もう一步近づいて！もう一步近づいて！もう一步近づいて！もう一步近づいて変化をもたらすの！

もうすぐよ、わたしたちの夢が輝きを放つのは。あなたがわたしの人生の一部だと知っているから、そして、わたしがあなたの一部だと知っているから...

わたしが望むのは—— もう一步近づいて！もう一步近づいて！もう一步近づいて変化をもたらすの！もう一步近づいて！もう一步近づいて！もう一步近づいて！もう一步近づいて変化をもたらすの！

ラ・ダ・ダ・ダダ！ラ・ダ・ダ・ダダ！ラ・ダ・ダ・ダダ、変化をも

たらすの！もう一步近づいて！もう一步近づいて！もう一步近づいて変化をもたらすの！

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

**トゥモロー
マイク・オカガキ**

この曲は感情を表現したもので、自分自身に関するぼくの考えを抽象的に表している。感情を探り、そしてそれを解き放つことこそが、自分自身をより広く知る助けになる。

当時のことをよく覚えているのに、いつも彼らの顔を思い出せない。いつも夜が終わると日が昇り、愛はすべての疑念を和らげる。

朝はあなたの闇を運び去る。暖かい輝く一日が塞いだ気持ちを洗い流し、明日はふたたびやってくる。

ぼくは理由を探して嘘をふるいにかけた。でも、見つけた答えは必ず変わり、さよならと手を振り、ふたたび、明日がやってくる。

前に進もうとする時、思い悩んでも、それはぼくをどこにも導いてはくれない。過去は頭のまわりをぐるぐる回り、あなたを惑わすだろう。でも、明日はふたたびやってくる。ふたたび明日はやってくる。

**ヨコハマ、カリフォルニア
追加曲について**

オリジナルのLP盤をCDの形式で再発する作業を進めている時、1977年にLPが発売された頃に作曲し録音したものを数曲追加したいという思いが出てきた。ヨコハマ、カリフォ

ルニアは、アジア系アメリカ「運動」から出現し、1970年代にアルバムを録音した。史上二番目のグループだ。最初のアルバムを録音したのはクリスとジョアンである。クリスとは故クリス・イイジマ、ジョアンは後にノブコ・ミヤモトとして知られることになる。このふたりに“チャーリー・チン”が加わった。彼ら3人のアルバム『A・グレイン・オブ・サンド』(A Grain of Sand)には、社会を良い方向に変革しようとする多くの若者に勇気を与える数々の曲が収録されていて、わたしたちはまず彼らの歌を覚え、歌おうと思った。その後、アジア系アメリカ人コミュニティのために自分たちでオリジナル曲を作り演奏したいと願うようになったわけだ。

ヨコハマ、カリフォルニアがライブ演奏を始めたころ、新たに四人のミュージシャンがグループに加わった。ドラムスのリッキー・タカハシ、フルートのホセ・アラルコン、ベース・ギターのスティーヴ・ヤマグマ、コンガのダグ・“デューグ”・サントスである。これら4人の姿はジャケットの写真で見ることができるが、残念ながら、彼らが参加した大編成での録音には音質の良いものがなかった。このCDに新たに加えた曲は、1977年にライブで演奏されており、すべてに主要メンバーのロバート、サム、マイケル、ピーターが参加している。録音の質は完璧ではないが、ライブで演奏したメンバー全員がグループの精神と芸術性を押し出しており、また、聴衆との交流も聴き取れる。わたしたちは、他のコミュニティのひとびとに、アジア系アメリカ人から見える景色を見せようとした。このアルバムは、アジア系アメリカ人により制作された数少ないレコードの中の一枚であり、その歌詞には、わたしたちの経験や精神性が表現されている。

ヨコハマ、カリフォルニアは、1970年代後半にカリフォルニア州で開催された多くのコミュニティ・イベントで演奏した。CDを手にとったみなさんが収録された曲を楽しんで聴いて下さることを願うと同時に、これらの曲群は今日においてもなお意味を失っていないとわたしたちは信じている。残念なことだが、最近発生したいくつかの事件からわかるように、

例えば「ザ・グレイテスト・チェンジズ(最大の変革)」という曲は、1970年代と不気味なほど似通った現在の社会状況について問いかけている。わたしたちは、今日のソングライターたちに、誠意を忘れず、心の底から湧き上がるものを基本に曲を作ることを強く勧めたい。自分たちの周囲に目配りし、耳を澄まし、多様性を持つひとびとや、わたしたちが暮らすコミュニティーに影響を及ぼす現在進行形の事象を見渡し、してほしいと考えている。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

イカウ・アイ・マイ・カサマ (You've Got Companions)

ロバート・キクチ=インゴーホ

英訳:ドリー・マリグリグ

この曲は英語とタガログ語のふたつの言語による歌として作曲され、様々に異なったフィリピン系アメリカ人の集団、汎アジア太平洋系アメリカ人コミュニティー、並びに、非アジア系相互の連帯、友好関係、幅広い情報の伝達、そして相互協力を推し進めるために作られた。当時、フィリピン系アメリカ人社会ではいくつかの大きな出来事が進行中であった——長い歴史をもつインターナショナル・ホテル(訳注4)をめぐる低価格住宅を求める闘争、当時のフィリピンの独裁者、フェルディナンド・マルコス大統領に対する米国政府からの支援を中止せよという要求などだ。ぼくが意図したのは、東西の活動家の団結をはかる歌を作ることだった。この歌は、ぼくが、フィリピン系アメリカ人組織である民主フィリピン連盟(KDP)の文化団体、シーニン・バヤン(Sining Bayan)に所属していたころ、多くの集会やイベントで演奏された。

心が沈んだとき、落ち込んだとき、気分が悪いとき、無一文になったとき、顔を上げ、あごを突き出してみよう。ひとりきりではないと気づいたとき きみには仲間ができる！

コーラス:

助けが欲しいとき、友だちが手を貸してくれるだろう。尽きることのない友情でひたすら友だちを助けよう
そうすれば愛が生まれる…きみには仲間ができる！

コーラス:

仲間ができる。落ち込んだとき、気分が悪いとき、無一文になったとき、顔を上げ、あごを突き出してみよう。ひとりきりではないと気づいたとき、きみには仲間ができる！lkaw ay may kasama, 仲間ができる！ lkaw ay may kasama, 仲間ができる！

(訳注4)百年以上の歴史をもつサンフランシスコの低価格ホテル。通称I-Hotel。マニラタウンに位置し、フィリピン系など、数多くの移民労働者が利用したが、都市再開発計画のため、1960年代後半に解体が通告される。フィリピン系学生を中心とした立ち退き反対運動は、日系や中国系など、他のアジア系アメリカ人コミュニティーをも巻き込み、社会的注目を集めた。1981年に解体されるが、I-Hotelは、1960年代から70年代にかけてのアジア系アメリカ運動の象徴的存在となり、映画や小説にも取り上げられている。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ノリコス・ブルース

ピーター・ホリコシ

若いころ、たとえ誰かを愛しても、そのひとをどんなに一生懸命愛そうとしても、うまくいかないことがあるということを知った。恋愛関係のあいだに悟ったのは、誰かを愛したとき、ある時点で相手の幸せが自分の幸せよりも大切になるということ。相手を幸せにできないのなら、どんなに悲しくても、それは、自分が立ち去るときが来た、ということだ。ここに収録したのは初期のヴァージョンで、後のヴァージョンでは最後の節の歌詞を次のように変えている。「ぼくが何をしてもあなたの夢を叶えることはできない。だから今日、ぼくの心はブルー。」。歌詞を大きく変えることになったが、このほうがよりの確に私の本心を表していると思う。

あなたのことを思いブルーになる今日のぼく。何をしても自分の夢を叶えることができない、だから今日のぼくはブルー…今日はブルー。

のんびりやろうとしても、今日は何もうまくいかない。あなたを愛しているのに、そのことをあなたに見せたくない。だから、ぼくは立ち去るべきだし、あなたも「どこかへ行って」と口にした。

ぼくたちは千回も別れたけれど、今日、ふたりの関係は完全に終わったんだ。また会えるかも、たぶん友だちとして、それとも今日ですべてが終わりか、本当にすべてが終わってしまったのかな。

友だちでいようとしても、今日は友だちの振りはできない。涙を拭くさ、でも、心は曖昧なまま。でも、今日ここにあなたはいい、今日ここにはいい。

あなたのことを思うと、ブルーになる今日のぼく。何をしても自分の夢を叶えることはできない、だから今日のぼくはブルー…ブルーな気分…あなたがいらないから。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ハンパー

ロバート・キクチ=インゴーホ

隠喩(メタファー)を用いるのは、アイデンティティと、アジア系アメリカ人として心理的にどのように生き残るかを表現したためである。曲のアイデアは竹の特性に関する古いアジアの哲学から生まれた。竹は、背が高く伸び、強く育ち、「コミュニティー」として地下で広がり、強風に吹かれても抵抗するのではなく、曲がることにより持ちこたえ、しかも、必要なときは風を跳ね返す。これは合気道の哲学——相手が自分を攻撃する力を反対に相手に向け、相手を降参させる——

と同じである。

竹よ、そよ風に揺れ、そよ風は緑色の踊る葉を揺らす。おまえは樫の木のように立ってはいないが、きっと多くの人たちはわかっている。おまえには静かな強さがあると、竹には美しさがあると。

わたしたちはどこか竹に似ていて、樫の木みたいではない。わたしたちにはできることがたくさんある。わたしたちは、とても小さく見えるかもしれないけれど、どんな突風が吹いても倒れはしない。人には3メートルの背丈はいらぬ。わたしは竹に似ていることを誇りに思う、樫の木に全然似ていなくても気にしない。

あなたは樫の木のように立ってはいないが、きっと多くの人たちはこう思っている。あなたには静寂な強さがあると、竹には独特の美しさがあると。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ドリーム・フォー・トゥモロー

ロバート・キクチ=インゴーホ&サム・タキモト

社会の変革を目指していると、任務やイベント、果てしない努力目標に忙殺されることがよくある。自分たちはいったいどんな未来を望むのか、と、何度自分たちに問いかけたことだろう。もしビジョンが達成できたら、物事はその時どんなふうに見えるのだろうか。これは、希望と粘り強い精神、そして、より高い気づきを求めた歌である。

明日になれば眠りから覚めるだろう、わたしの眼は開いた窓、この狂気は夢だった。どうかしているよ、国と国がゲームをしていて、ひとびとは踊るのではなく、足枷をかけられ、鎖でつながれている。

この稲光と雷鳴のさなかに、こんなことがあり得るのか。夢をみているのだろうか……

明日ベッドから起き上がって、昨日の悲しみと頭に浮かぶ幻影と戦えるだろうか、どうかしている。わたしの生命の炎よ。それはあつという間に燃え尽きるから、時間を無駄にできないのさ。

この怒りと憎しみのさなかに、こんなことがあり得るのか、夢をみているのか、わたしは眼を覚ますことができるだろうか。

明日、眼を覚ませるだろうか、眠りから覚められるだろうか。わたしの眼は開いた窓、この狂気は夢だった。明日、眼覚めれば、嵐は過ぎ去り、子どもたちや男たち、女たちは、ついこ、世界の平和を手に行っているのだろうか。

ようやく…平和が。これがわたしの明日への夢。平和が…ようやく。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ナウ・ザット・ユーヴ・ゴーン マイケル・オカガキ

(注:この曲の別ヴァージョンはCD『The Songs of Sequoia』にも収録されている)

音楽とギター演奏について考えてみると、ぼくの演奏の基盤を作ったのは、フォーク・シンガーたちが続けてきた伝統的な方法であった。要するに、他者から学ぶということだ。ヨコハマ、カリフォルニアがデビューしたころ、ピーター(ピーター・ホリコシ)は複雑なフィンガー・スタイルを使う曲を書いて、幸運にも、ぼくは自分でできるどんなリック(指の運び方)を求め、借り、盗むことができた。ピーターは心の広い優しい先生で、作曲を始めるために必要な技術やインスピレーションを与えてくれた。この曲は伝統的なトラヴィス・スタイル(訳

注5)で、コード進行も非常に一般的なものだ。サム(サンドラ・タキモト)がこの曲に驚くべき奥行きをもたらしている。信じられないが、彼女が重ねるハーモニーはあらかじめ決められたものでも作曲されたものでもない。こんなに多くの才能あるミュージシャンたちと共演できたことをぼくは幸運に思う。

わたしが去ってからほとんどいつも独りであるのは何故って、きみは尋ねる。たぶん、きみにはわからないよ、きみは別の日と別の歌に属しているから。

新しい日が訪れ、朝の空は高く、雲はあてもなく浮かんでいる、まるでぼくのようにね。きみが去ってから、ぼくには数人の友だちができた。新しい日が訪れ、朝の空は高く、雲はあてもなく浮かんでいる。まるでぼくのようにね。きみが去ってから、時の流れが思い出を忘れさせてくれる。

(訳注5)カントリー・ミュージックのギタリスト、マール・トラヴィスが生み出したフィンガー・ピッキング奏法。親指でベース音を、人差し指や中指でメロディーを弾く。ギャロッピング奏法とも呼ばれる。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ホット・オーガスト・モーニング (ライブ・バージョン) ピーター・ホリコシ

本CDにこの曲のライブ・バージョンを加えたのは、サクラメント地域でよく演奏されたからだ。サクラメントの近くにはフローリン(訳注6)という町(歌の前に朗読される詩に名前が出てくる)があり、ぼくはそこで育った。オリジナル・アルバム収録のバージョンとは数か所で編曲が異なる。

(訳注6)日本人が北カリフォルニアに移民した初期、最初に「日本町」ができたのがフローリンだと言われている。「ヨコハマ、カリフォルニア」のリーダー、ピーター・ホリコシの出身地であり、サクラメント・デルタと

呼ばれる肥沃な平野に位置する。フローリンにも、州都サクラメントにも、もはや「日本町」は存在しない。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

ミュージック・フォー・ザ・ピープル ロバート・キクチ=インゴホ

この曲をぼくはコール&レスポンスの方法、異なったリズムが同時に演奏されるポリリズム、そして歌詞の内容に注意を払いながら書いた。ぼくたちは、福祉施設、社会正義を求める団体、コミュニティ組織、資金集めのためのイベントなどのために演奏を頼まれることが多かった。そこで、聴衆全員が(コミュニティ内の多様な声のように)自分のパートを歌えるような曲が欲しくなった。それで、いくつかのリフレイン(くりかえし)を異なる聴衆のグループに振り分けることができ、それぞれの歌詞が、隣のグループの歌詞と異なるように工夫すると、結合され協調性を持つ多様性が生み出されると考えたのだ。

メディアはぼくたちをおとなしい連中と報道し……(しーっ)、ぼくたちを消極的に描く。それを世間がうのみにすることを願ひ、ぼくたちにはあまり意見がないと決めてかかる。しかし、ここにぼくたちのすべきことがある、真実を語る歌を歌うんだ。年寄り、若者、そしてみんなのために歌うんだ。間違った考えに騙されてはいけない、みんなにたくさん質問をさせるんだ。変化を起こすにはみんなの助けがいる。みんなの。

ぼくたちに何がある？ 音楽がある！ ぼくたちはどうすべきなのか？ 音楽を使うんだ！ 誰のために？ ひとびとのために！ 教育の手段としてひとびとに音楽を。ぼくたちにはひとびとのための音楽がある、音楽を使って新しい文化を築くことができる。

ぼくたちには音楽がある！ 古いものや新しいもの、ぼくたち

は音楽を使うんだ！ 誰のために？ ひとびとのために！ ぼくたちにはひとびとのための音楽があり、心を強くするために音楽を使うことができる。ぼくたちにはひとびとのための音楽がある、だからもう黙ってはいない！

さあ、音楽を聴いて！ ぼくたちには音楽がある！ ぼくたちの歌を歌って、その音楽を使うんだ！ それは誰のため？ ひとびとのためさ！

ぼくたちはメディアに抗議しなければならぬ。かれらは、みんなに語りかける声を抑圧しようとするから。大声で歌って闘うんだ。きっと証明できる、みんなが共通の目標に向かって力を合わせていることを。そして、それは、団結…

ぼくたちに何がある？ 音楽がある！ ぼくたちはどうすべきなのか？ 音楽を使うんだ！ 誰のために？ ひとびとのために！

ぼくたちには音楽があるから、それを使うんだ！ ぼくたちには音楽があるから、それを使うんだ！ さあ集まろう、ぼくたちの歌を歌おう、ぼくたちには音楽があるから。ひとびとのための音楽が！

翻訳: 神田 稔
Translated by Minoru Kanda